VOL　３５
2010 年 5 月号
発行 2010 年 4 月 28 日
日本山岳会　山岳地理クラブ
URL●www.jac.or.jp/doukoukai/

熊に追いかけられた話

渡辺真一

耳元まで裂けた真っ赤な口とむき出した歯、目は爛々と輝きしかも両端が極端につり上がっていて、もう誰が見ても本気で怒っている。ヤブから出てきた母熊はいきなり後ろ足で立ち上がり両手を挙げてこのような形相で威嚇してきました。そして目が合うなりうなり声を上げてこちらに向かってくるときの躍動する肩の筋肉を認識したあと、私の頭の中はアドレナリンで充填され時間が停止し一瞬の場所移動をしておりました・・後ろを振り返る勇気もなくめいっぱい走って逃げたのでしょう・・林道の角を廻って息が切れて気が付いたら両手に木の棒を握りしめて突っ立っていました。どこで拾い上げたか全く記憶がありません。幸いに小熊を連れていたからか深追いはして来なかったので命拾いをしました。

3 年前の七夕の頃、土曜日の午後から 1 泊の予定で岩魚釣りに出かけました。場所は今や皇海山登山のメインルートとなっている約 20㎞ のダートコースを走る栗原林道のほぼ終点近く、延間峠という支道の終点でした。ここには何回か来ており地理感はありました。支道は車止めがあったので 30 分ほど歩いて林道終点にある広場に入ったところ、山道に入るところに体長 30㎝ ほどのホントに小さな小熊がいました。これは珍しいものを見たと、10m位に近づいて写真を撮ったのがこれです。後ろを向いたまま何かを食べるのに夢中で一向に動かないので、何気なく小石をそばに投げたら、トコトコと小熊の逃げた先のヤブの中から何と・・・

懲りないことに私はそこを大きく迂回して渓に下り、途中黒っぽい影が何でも熊に見えてその度に肝を冷やしながら歩いて薄暗くなる頃ようやく小田倉沢上流のテン場にたどりつきました。夜になり、そのうちガス欠。ヘッドランプを忘れ、もう気力も萎えてしまい湿った焚き木の火をつけられず、熊に襲われたときにはテントごとくるまってしまうしかない・・今更戻るわけにもいかず真っ暗な中で何度もあの時点で帰らなかったことを悔やんだことか・・こんなに怖い夜を過ごしたのは生まれて初めて・・でした。天地災害の動かない自然も怖いものがありますが、動く自然も実に怖い!!!

余談ですが、この山域一帯は「根利山」と呼ばれており戦前は足尾銅山で使用する木材、薪炭の供給源として皇海山の登山口付近には大きな集落もあり、最盛期には 1500 人もの人々が働いていたとのこと。私の古い道路地図にはこのあたりに沢と沢を結ぶ道路が記載されていました。小田倉沢上流のテン場も集落跡らしく生活用品を見つけることがあるし、その北側にある渮川（たにかわ）は 10 年前には廃屋が残っていてそこから三重泉沢に踏み跡が続いていました。いつか、熊よけスプレー持参でこの踏み跡をつないでみたいと思っています。

連載　ゆにーく　標識&標石　⑰　郵政省用地標石

埼玉県秩父市に武蔵屋というテレビでも紹介される蕎麦屋がある。店の内部に入り順番待ちをしていた時、眼を疑うような郵政省用地という標石と遭遇した。もちろん店の中、それも厨房の入口なのだから邪魔そうであった。店によれば、昔ここに郵便局が有ったとか。郵政省が片付けるのを忘れたのだろうか。(遠山)

行ってきました　台湾最高峰　玉山へ

今井秀正

３月５日から９日まで台湾最高峰玉山へ行ってきました。中華民国山岳協会から玉山開山祭への招待がＪＡＣにあり、そのメンバーに加えていただいた山行です。学生時代から41年ぶりに訪問してみると同国の発展振りを目の当たりにし、先進国台湾の活気を感じました。　台北や台中の街は高いビルが立ち並び、高速道路上からの風景も最新の工場地帯や高層住宅郡が見られ、当時の水牛が耕す水田など、今は昔の風景ということになります。

開山祭は６日上東埔の公園で快晴の南国の暑い日差しの中で行われ、数百人の人々で大変盛大なものでした。ＪＡＣ隊14名は挨拶の後、塔塔加登山口２６８０mまでバスで移動し、昼食の後、宿泊地の排雲山荘３４０２mへ向かいました。山荘まで８.５kmありますが全体に急なところは少なく、荷物が少々多かった部分を除けば比較的「楽」な印象でした。急傾斜の山腹につけられた登山路は地形の厳しさを十分に感じ取ることが出来ましたが、危険な箇所には木製の比較的新しい橋がいくつもかけられていて、国家公園らしい整備された危険が少ないハイキングコースの印象でした。橋には全て金属の財産票のような番号プレートがあり、頂上に一番近いものはNO．８６で、下山のときにはNO．を逆順に見ることによって単調な下りの励みにもなって、妙な効果を経験しました。

ここの森林限界は３５００m付近であり、山荘まではすべて樹林の中で、直接の陽光を感じることは少なく、６時間ほど涼しく？歩くことが出来ました。翌朝は５時前に頂上へ向けて出発しましたが、樹林が切れる付近から雪が見られ、アイゼンを着装しました。山荘までのコーストは打って変わり、頂上直下の斜度はきつく、落石が多い地帯を何回か横切り、雪と岩のミックスで、鎖がある部分では鎖が雪に埋もれて利用できず、大変緊張する状況でしたが、雪がしまっていたことが幸いしたと思います。頂上直下の落石除けかと思われる鉄骨と金属ネットのトンネル内には腐った雪が詰まり、腹ばいになって雪とネットの隙間を擦り抜けなければならない状況などもあり、通常は２．４km２時間のところ約３時間半かかり、８時半頃山頂３９５２mへ登頂することが出来ました。

山名の標石右手前には日本規格の三角点標石と思われるものがありましたが、文字は全く読み取ることは出来ず、確認はできませんでした。日本統治時代に新高山登山路が整備されたという事情からすると日本産の標石かも知れません。

山頂からの展望は、夜明けとともに雲が発生したため、東峰のほかは周囲のピークが僅かに見える程度で少々心残りがあります。開山祭翌日の記念登山日ではありましたが、排雲山荘の定員一杯の８０名のうち、山頂へ達したのはＪＡＣ隊ともうひとつの日本人隊計２１名と、

案内していただいた台湾山岳協会の林哲全さんほか数名のみだったのは意外でした。南国の登山者は雪山経験や装備がある人は少ない様で、山荘までで引き返した模様でした。１７時前に登山口へ戻り、バスで水里の国家公園管理処の宿泊施設へ移動し、翌８日は日月潭他を経由して台北へ。夜は中華民国山岳協会によって市内のレストランで盛大な晩餐会を開いていただき、その場で謝長顕理事長名の玉山登頂証明書をいただきました。

今回の訪台で台湾山岳協会の方々は勿論のこと、各地で接していただいた人々の日本人に対する親切や並々ならぬ好意を改めて感じることが出来、楽しい経験をさせていただきました。

行きましょう　多摩川・荒川分水界探索

延期していた上記探索を５月８日(土）に開催します。(JR軍畑AM8：40集合）詳細は北野(090-3406-1189)まで

例会の議事録　４月定例会記録

２０１０年４月１４日（水）　１９：００～２０：００於いて１０４号集会室

出席者１８名（北野、片野、半田（明)、半田（由)、鶴田（泰)、寺田(正)、寺田(美)、大西、川口、鈴木、関、田中、森、小松原、渡辺、平野、遠山、近藤、(順不同)

内容　①江ノ島での通信実験実施(3/13(土)参加８名)　。煙(発炎筒)と旗は確認できなかったが反射光が高麗山-江ノ島間(約14km)で双方とも確認できたことは感動。次回はもう少し距離を拡大(約30km)し山岳での実験を試みる。ミラーの固定方法やキューブミラーでの使用も検討し数種類のﾒｯｾｰｼﾞ信号の可能性を実験する。関連情報として相場の伝達に赤い布が使用された内容のTV放送があった（関　鶴田,ﾎｶ)　②立川断層沿いを歩くテーマで読図研修が行われた(3/17(水)参加13名)、断層上に新しい家などが建っていたり、玉川上水の両岸の段差など改めて確認できた。広大な日産の工場跡は通過できないので二手に別れ迂回。興味深い研修であった。なお次回４／２１予定は都合により延期（遠山）　③多摩川・荒川分水界探索(3/21予定の延期）　は５月８日(土)に行う。また新設の多摩支部で県境界踏査を計画しており重なる部分が多いが趣旨を認識願いたい（北野）④登山道情報交換の協定について、国土地理院より協定書の修正案の説明があり今後の方針を協議した（3/13 出席：宮崎副会長、北野、平野）　紙地図の提供、委員会設置などが課題として挙げられた（平野）⑤天保10年、淵野辺村,名主の妻の巡礼の旅の記録の文献紹介(遠山)　⑥埼玉支部設立が難航している（遠山）⑦田中氏が４月より環境省に移動になった。　ほか　終了後汁番館にて懇親会（参加17名）　**記録：近藤**

――――――― お　知　ら　せ ―――――――

次回の例会

日時　２０１０年５月１３日（木）　１８：３０から
於：山岳会　ルーム
テーマ：読図山行、山岳通信　報告ほか
今月は例会日が変りますのでご注意ください

AGC レポート　vol-35　2010年4月28日発行
発行：日本山岳会・山岳地理クラブ（代表・北野忠彦）
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会　気付
TEL　03-3261-4433　　FAX　03-3261-4441
編集担当：近藤　　E-mail：hikarikon@nifty.com